

# 天界の秘義第五章



5:1 これは、アダムの歴史の記録である。神はアダムを創造されたとき、神に似せて彼を造られ、

5:2 男と女とに彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、その名をアダムと呼ばれた。

5:3 アダムは、百三十年生きて、彼に似た、彼のかたちどおりの子を生んだ。彼はその子をセツと名づけた。

5:4 アダムはセツを生んで後、八百年生き、息子、娘たちを生んだ。

5:5 アダムは全部で九百三十年生きた。こうして彼は死んだ。

5:6 セツは百五年生きて、エノシュを生んだ。

5:7 セツはエノシュを生んで後、八百七年生き、息子、娘たちを生んだ。

5:8 セツの一生は九百十二年であった。こうして彼は死んだ。

5:9 エノシュは九十年生きて、ケナンを生んだ。

5:10 エノシュはケナンを生んで後、八百十五年生き、息子、娘たちを生んだ。

5:11 エノシュの一生は九百五年であった。こうして彼は死んだ。

5:12 ケナンは七十年生きて、マハラルエルを生んだ。

5:13 ケナンはマハラルエルを生んで後、八百四十年生き、息子、娘たちを生んだ。

5:14 ケナンの一生は九百十年であった。こうして彼は死んだ。

5:15 マハラルエルは六十五年生きて、エレデを生んだ。

5:16 マハラルエルはエレデを生んで後、八百三十年生き、息子、娘たちを生んだ。

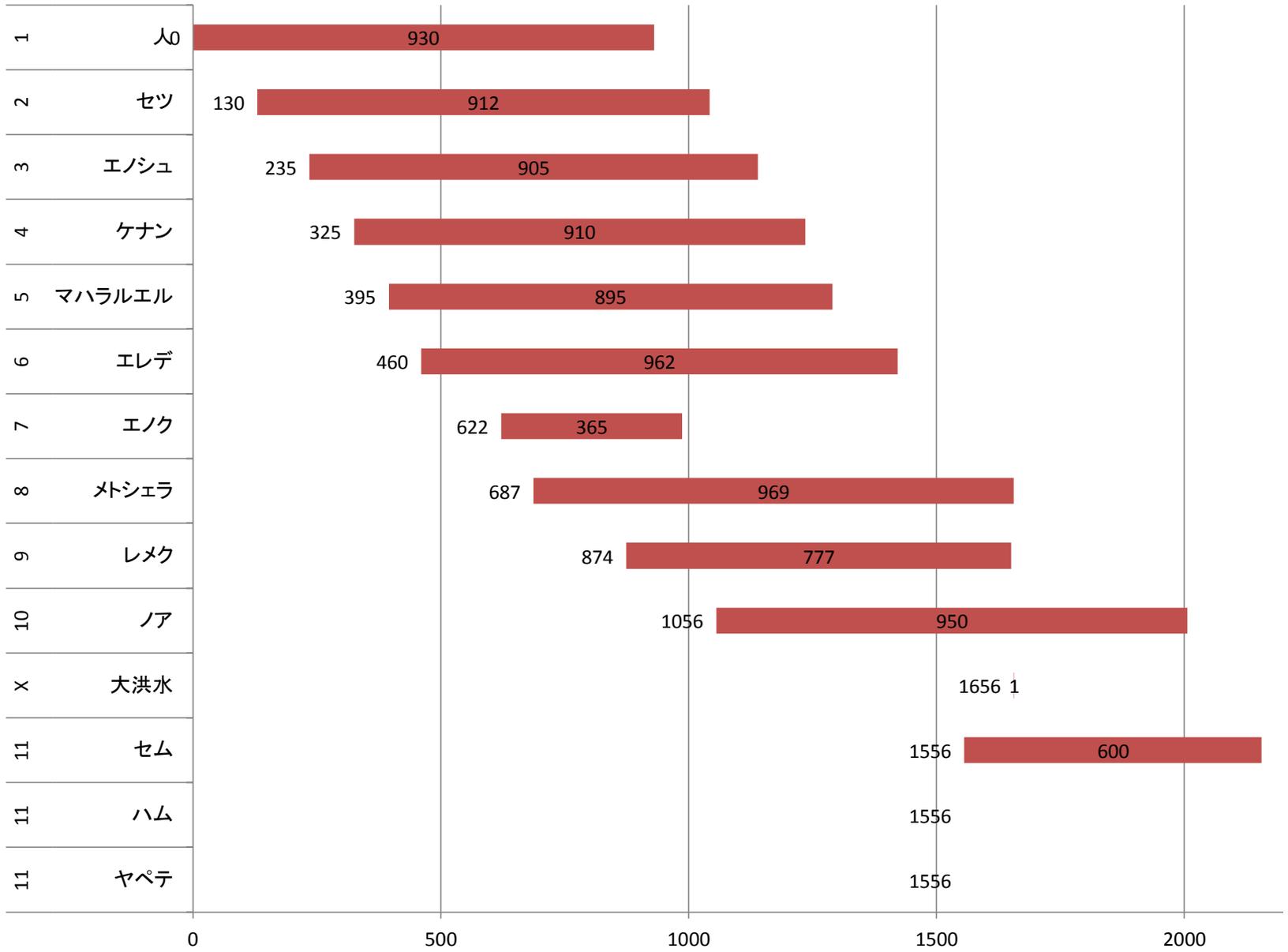
5:17 マハラルエルの一生は八百九十五年であった。こうして彼は死んだ。

5:18 エレデは百六十二年生きて、エノクを生んだ。

5:19 エレデはエノクを生んで後、八百年生き、息子、娘たちを生んだ。

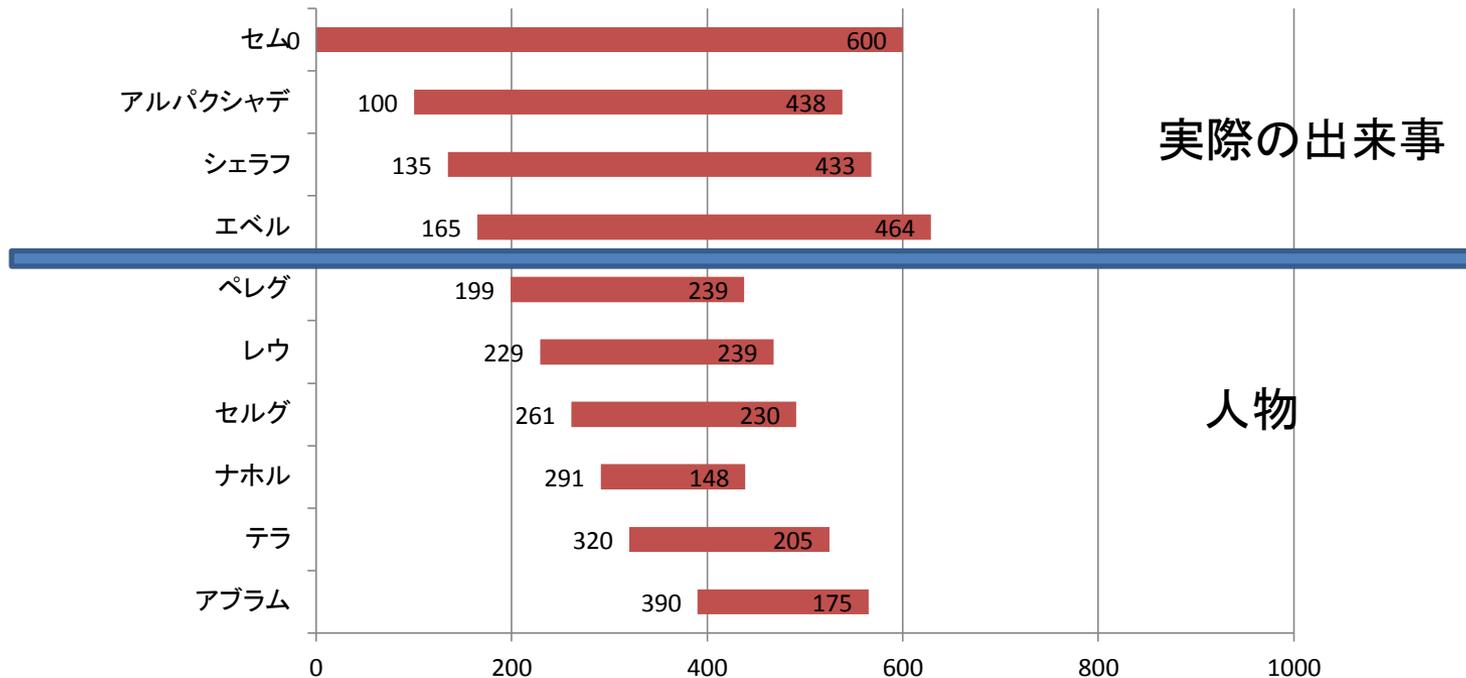
5:20 エレデの一生は九百六十二年であった。こうして彼は死んだ。

- 5:21 エノクは六十五年生きて、メシェラを生んだ。
- 5:22 エノクはメシェラを生んで後、三百年、神とともに歩んだ。そして、息子、娘たちを生んだ。
- 5:23 エノクの一生は三百六十五年であった。
- 5:24 エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。
- 5:25 メシェラは百八十七年生きて、レメクを生んだ。
- 5:26 メシェラはレメクを生んで後、七百八十二年生き、息子、娘たちを生んだ。
- 5:27 メシェラの一生は九百六十九年であった。こうして彼は死んだ。
- 5:28 レメクは百八十二年生きて、ひとりの男の子を生んだ。
- 5:29 彼はその子をノアと名づけて言った。「主がこの地をのろわれたゆえに、私たちは働き、この手で苦勞しているが、この私たちに、この子は慰めを与えてくれるであろう。」
- 5:30 レメクはノアを生んで後、五百九十五年生き、息子、娘たちを生んだ。
- 5:31 レメクの一生は七百七十七年であった。こうして彼は死んだ。
- 5:32 ノアが五百歳になったとき、ノアはセム、ハム、ヤペテを生んだ。



5:1 これは、~~アダム~~人の歴史の記録である。神は~~アダム~~人を創造されたとき、神に似せて彼を造られ、

470



	生年	没年	寿命	
セム	0	600	600	Shem
アルパクシャデ	100	538	438	Arphaxad
シェラフ	135	568	433	Salah
エベル	165	629	464	Eber
ペレグ	199	438	239	Peleg
レウ	229	468	239	Reu
セルグ	261	491	230	Serug
ナホル	291	439	148	Nahor
テラ	320	525	205	Terah
アブラム	390	565	175	Abram

家：夫婦と子供  
家族：家の集合体  
国：家族の集合体

これらの集合体で区分されて住むことで各教会は完全に守られた。  
家族は親に依存することで、愛と真の礼拝が残った。  
(感知力の時代)

472 神は~~アダム~~人を創造されたとき、神に似せて彼を造られ、

似姿 天的 複製  
像 靈的

創造 再生 靈的  
造る 完成 天的

5:2 男と女とに彼らを創造された。信仰と愛の結婚

彼らが創造された目に、

神は彼らを祝福して、

その名を~~アダム~~人と呼ばれた。教会 (注意) 彼ら→人(単数)

靈的であった時の教会、その後天的とされる

エバ＝生命：愛  
女＝教会  
男＝教会の人間

2 וְיִשְׂרָאֵל → 1 אֲדָמָה 3 אֶדָּם → 4 אֶדָּם 5 אֶדָּם 6 אֶדָּם 7 אֶדָּם → 8 אֶדָּם → 9 אֶדָּם

イザヤ13:12 わたしは、人間(エノシュ)を純金よりもまれにし、人(アダム)をオフィルの金よりも少なくする。

481

5:3 ~~アダム~~人は、百三十年生きて、最古代教会とさほど異ならない新しい教会の出現以前彼に似た、彼のかたちどおりの子を生んだ。似姿は信仰、像は愛について言われる彼はその子をセツと名づけた。

名も数字も別の事柄を意味している

483 セツ～ノアは、「人」で名付けられた教会と第一原則を同じくする教会。この教会の違いは、感知力の差:両親から生来の性質として伝わります。

484

セツという教会:愛という面では「人」教会に劣る。しかし信仰は愛と結合していた。

5:4 ~~アダム~~人はセツを生んで後、八百年生き、息子、娘たちを生んだ。

486

息子・娘：セツ教会が感知した真理と善

日：一般的な状態

年：個別の状態

492

5:5 ~~アダム~~人は全部で九百三十年生きた。こうして彼は死んだ。

人教会が持っていた感知力はもはや存在しなくなった。

494 →悪を行うことで遺伝悪が蓄積されてゆく

496 5:6 セツは百五年生きて、エノシュを生んだ。

①人教会

②セツ教会 ①より天的でない

③エノシュ教会 ②より〃

④ケナン教会

①～③が最古代教会の仁(種子の核)

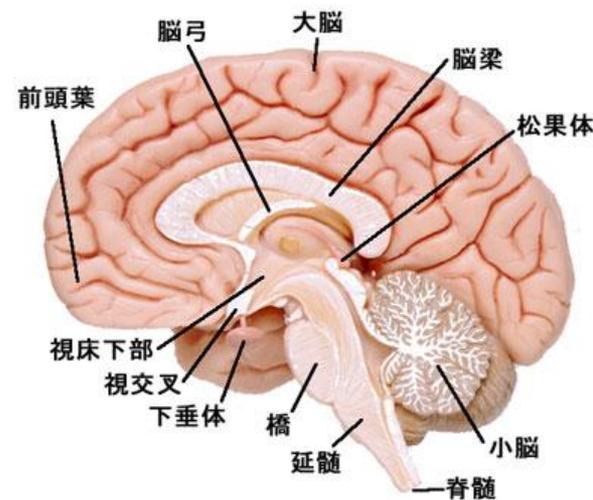
502

感知力がより一般的に、よりぼんやり

503

感知力は幸福と歓びと密接に結びつく。

役立ちの行いが、彼らの幸福、役立ちから、役立ちによって、役立ちに従って主から生命を得た。



511

5:15 マハラルエルは六十五年生きて、エレデを生んだ。

マハラルエル教会：役立ちの喜びよりも、真理からの喜びを好んだ。  
(感知力の性質)

5:21 エノクは六十五年生きて、メトシェラを生んだ。

5:22 エノクはメトシェラを生んで後、三百年、神とともに歩んだ。そして、息子、娘たちを生んだ。

神とともに歩む：信仰の教義を教え、これに従って生きる

エホバとともに歩む：愛の生活を送る

5:23 エノクの一生は三百六十五年であった。

少なかった。

5:24 エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。

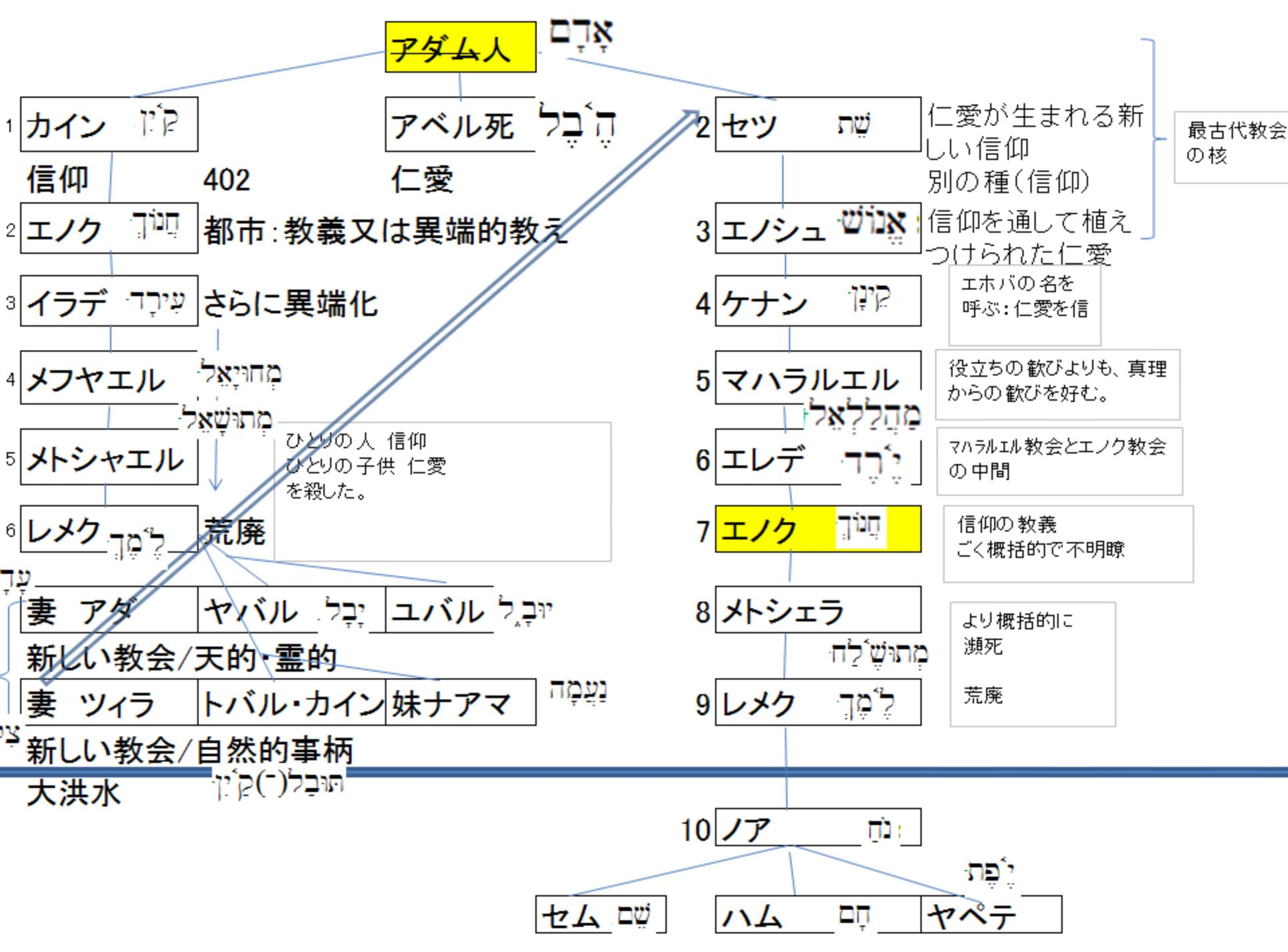
教義は子孫のために保存された。

感知力によって知る(内的な道) ←→ 教義によって学ぶ(外的な道)

光

闇

エノク教会：区別が曖昧な、ごく概括的



エノク書??? <http://www1.ocn.ne.jp/~koinonia/apoca/4enochoutline.htm>

『エチオピア語エノク書』は『第一エノク書』(1 Enoch)とも呼ばれています。現在全体としてまとまって残っているのは、エチオピア語のものだけですが、これのほかに、クムランの洞窟から発見されたヘブライ語の断片やアラム語の断片、またギリシア語やラテン語の断片があり、さらに、エチオピア語訳よりも短くまとまったスラブ語訳もあります。現在では、『第一エノク書』(『エチオピア語エノク書』)は、その大部分がアラム語で書かれ、これがギリシア語訳を通してエチオピア語へと訳されたと考えられています。

### (1) 序の書: 1～5章(ペルシア時代からヘレニズムの初期)

ここは1～36章(前250～前200年)までの導入部分です。神から啓示を受けた義人エノクは、終末の苦難の時に選ばれる義人と追放される不敬虔な者たちについて、天使たちから見聞します。最初に、主なる神が、シナイより天の軍勢を従えて顕現し(申命記33章1～2節)、その栄光によって、山々はふるえもろもろの丘は低くされます(第三イザヤ56～66章)。次に来るべき遠い時代のことが語られます。

### (2) 見張りの天使たちの書: 6～36章(前300～200年)

創世記6章の記事に基づいて、見張りの天使たちが(シェミハザやアサエルなど200名)、結束して誓いを立てますが、この時にアサエルはすでに反逆の兆しを口にします。彼らは、ほんらい人間を教え監督する「見張り役」であったのに、神に反逆して墮落して、人間の女たちと通じて巨人たちを生みます。その結果生まれた巨人たちは、人間たちを食らい、互いの血をすすり合い、結果として暴虐が地に満ちることになります

### (3) たとえの書: 37～71章(前40年?～後50年?)

### (4) 天文の書: 72章～82章(紀元前3世紀?)

(5) 夢幻の書: 83～90章(前164年) (6) エノク書簡: 91～105章(前100年頃) (7) ノアの誕生: 106～107章 (8) エピローグ: 108章

5:29 彼はその子をノアと名づけて言った。  
「主がこの地をのろわれたゆえに、  
私たちは働き、この手で苦勞しているが、  
この私たちに、この子は慰めを与えてくれるであろう。」

ノア：古代教会・最古代教会から遺った教義

遺宝remains 感知力はなく、完全性と、感知力から由来する教義があった。

私たち(ラメク教会)は働き、この手で苦勞しているが、：教義  
自らあるいは自分自身のものから真であるものと善であるものを求めなければならない

この子は慰めを与えてくれるであろう。：生きながら得、持続しなければならない